

第30回

2019 福祉住宅建築助成実例集

# ふれあい



イラスト/株式会社 伝々小社

バリアフリー住宅施工例

公益財団法人

ノーマライゼーション住宅財団

# 私たちの「願い」

—— 公益財団法人として ——

私たちは、公益に資する法人として、

「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき

高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備、向上を通して

すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に、すべての事業に取り組んでおります

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

～優れた作品を手がけた企業様に感謝状を進呈させていただきました（一部）～



(株)住まいのクワザワ様

## 自立に向けた住環境の整備を

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 公三

世界に類をみない超高齢社会に足を踏み入れたわが国では、高齢者が生きがいをもって快適に暮らすことのできる社会づくりが急務です。それにはまず生活の基礎となる住環境の整備が重要と考えます。そして障がい者が地域で暮らし、自立した生活を送ることができる環境作りは、誰もが願う共通の課題です。

平成元年に設立した当財団は、ノーマライゼーションの理念のもとに、建築、福祉、医療、保健など様々な分野の協力をいただきながら、福祉住宅の研究と普及に力を注いでまいりました。その成果は、設立以来続けております「福祉住宅建築助成事業」にみることができます。その対象住宅を紹介するこの実例集「ふれあい」の発行も、おかげさまで30回目となりました。

今回も各地から多数のご応募をいただきました。それらを見ると、年ごとに福祉住宅の水準が向上していることが感じられます。近い未来には、誰もが安心して暮らせる福祉住宅が一般住宅として普及することを願いつつ、「ふれあい」発刊にあたり、取材にご協力くださいました建築主の皆様、及び選考にご協力くださいました審査委員の皆様に、心からお礼申し上げます。

# ふれあい

## 目次

自立に向けた住環境の整備を

(公財)ノーマライゼーション住宅財団 理事長

土屋 公三

重い障がいのある家族と  
安心快適に暮らせる住まい

4

重度障がいの長女と両親が  
共に快適に過ごせる住まい

北海道札幌市

F様邸

6

余裕あるスペースを  
各所に設けて安心・快適

北海道旭川市

M様邸

8

障がいがあってもQOLを  
保つことができる家づくり

北海道札幌市

S様邸

10

仲間にもらった助言が  
家づくりの貴重なヒントに

北海道比布町

K様邸

12

### 新築タイプ

第30回の審査委員(敬称略・順不同)

審査委員長

北海道科学大学 名誉教授 菊地 弘明

審査委員

北海道デザイン協議会 名誉会長

(株)住宅産業新聞社 代表取締役

(株)北海道住宅新聞社 代表取締役

(有)環工房 代表取締役

大阪 克彦

小西 征夫

白井 康永

牧野 准子

北海道社会福祉協議会 福祉人材部長

札幌市社会福祉協議会 常務理事

北海道新聞 社編集局生活部編集委員

野村 宏之

瀬川 誠

塚崎 英輝

医療と福祉で  
街づくり

特集

高齢化が進む地域を活性化する  
北海道済生会小樽病院の新視点

22

小規模タイプ

全国の障がい者を受け入れる  
多様なタイプのGHを用意

北海道札幌市

グループホーム  
ぱんけの森

20

リフォームタイプ

巧みなアイデアの数々で  
快適になった古いマンション

神奈川県横浜市

M様邸

14

福祉住宅に長けた企業が  
大満足のリフォームを実現

兵庫県神戸市

N様邸

16

断熱性能を上げ四季を快適に  
段差解消で安全に暮らせる家

神奈川県横浜市

N様邸

18

# 重い障がいのある家族と 安心快適に暮らせる住まい

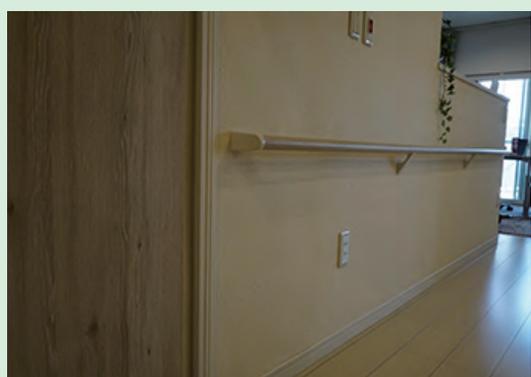
今回は平成30年度の福祉住宅助成金事業にご応募いただいた福祉住宅のなかから新築4例、リフォーム3例、そして小規模住宅1例を紹介させていただいております。特に「重い障がいのあるご家族を介助しやすく安心な家づくり」の実例が顕著でした。

## 災害時の安全策は大きな課題

今回の応募作品は新築・リフォーム共々、重い障がいのあるご家族のための事例が多く寄せられました。「介助のしやすさ」と「自立生活」というそれぞれのテーマに特化した作品が多いのが特徴です。

重い障がいを持って生まれてきたお子様、ご家族に配慮した3つの事例がありました。お子様の障がいの度合いや家族構成がほぼ共通しているため、ご家族の希望、それに応じるバリアフリーにすべきポイント、家づくりの工夫も、多くの点で共通しています。その内容は障がいの種類が違っても、例えば寝たきりになった高齢のいるご家族が家づくり

を検討される際に重要となるヒントとなり、充分活用していただけるはずです。類似した実例が集まったことで、より明確にポイントを把握していただけたと思います。



独自の工夫や既存の環境を上手に利用することもできることを示す実例です。

「自立生活」に重きを置いた実例は新築とリフォーム、それぞれ1つずつ紹介していますが、実に興味深い内容です。障がいがあっても「自立した生活をしたい」と思う人の生活を補助する技術はすでに多くありますが、

地震によって、全道の電力が停止に追い込まれたことは、まだ皆さんの記憶に新しいでしょう。障がいのある皆さんは、生活の多くの部分を電気に頼らざるを得ません。日常生活で医療機器を必要とされている人、昇降機が無ければ屋外に出られない人などにとって、あの電気が止まった長い時間に抱えられた不安は計り知れなかったでしょう。今回取材した中にも、停電で外に出られなくなってしまう施主様がおられました。障がい者の生活環境における非常時の対応策は、早急に探さねばならない社会的課題です。

## 情報をどうやって集めていくか

これまで「ふれあい」の取材を通じて多くの皆様と出会い、必ず毎回実感してきたのが福祉住宅の情報の少なさです。今回もバリアフリーについての情報不足に苦しまれたという方が多かったという印象です。

この現状は簡単に変えられるものではない



りませんが、有効な対策をいくつか聞くことができませんでした。1つは同じ障がいのある人や家族、利用している施設などから情報を得ることは可能です。これが最も早道で、しかも信頼できる情報を得ることができればよい。

そして今回、インターネットを活用した事例がありました。ネット上には福祉住宅の情報がたくさんありますが、信頼度や内容などから、どうしても二の足を踏んでしまいます。今回はネットのたくさん情報を自分なりに分析して依頼する企業を選択し、大満足のリフォームを達成できた事例も紹介しています。

## 優れた技術のさらなる発掘が目標

さて、今の日本は一極集中がとどまることを知らず、中央と地方の格差は広がるばかりです。今回の小規模住宅部門、そして特集では、そうした国の在り方に福祉がどう影響されているという実情の一端、それに対応している関係者の取り組みを取材することができました。小規模住宅部門での取材を通じて、この先高齢者や障がい者は地方でしか生

活できなくなるのではという危機感を増々強めました。一方、特集で紹介する社会福祉法人の取り組みは大変可能性のある、前例を見ないようなものです。同様の取り組みが全国に波及することで、福祉だけではなく地方の疲弊を回避につながるのではないかと。そんな希望を持てるお話を聞くことができました。

おかげ様で30回を迎えた当財団の福祉住宅助成金事業ですが、この度初めて紹介させていただく建設会社も数社あります。いずれも素晴らしい事例で、この誌面で紹介させていただくことは大きな喜びです。福祉住宅のエキスパートは、まだ数は少ないかもしれませんが確実に存在します。そうした企業の実例をもっと発掘し、記録に残していきたい。そういう思いを一層強くした次第です。





家族それぞれが家のどこにいてもコミュニケーションが取れる工夫がされています。撮影の関係でカーテンを閉めていただきましたが、リビング、隣り合うYちゃんの部屋は日当たり抜群です。

# 重度障がいの長女と両親が 共に快適に過ごせる住まい

## 無理な姿勢の介助で腰を痛めたご主人

Fさんご夫妻の一人娘、4歳のYちゃんは生まれつき、生活全般に介助が必要な重度の障がいがあります。以前は一般的な賃貸マンションで生活していましたが、廊下やユーティリティが狭く、Yちゃんを大きなバギー型車いすで移動させたり、お風呂に入れたりするのがとても不便だったそうです。その不便さはYちゃんが成長する度に大きくなり、無理な体勢で介助を続けていたご主人は腰を痛めてしまいました。それをきっかけに不便が無く、家族みんなで安心・快適に生活できる家づくりを始めました。

当初はバリアフリーのマンションに住むことも考えたそうですが、現在は軒並み価格

が高騰していることもあり、設計の自由度も高い戸建てに決めました。

今回の工事を請け負った企業は、大きなバギーにYちゃんを乗せたままスムーズな動線の確保や開口部に引戸を採用するなどの工夫のほか、あまり外出できないYちゃんが、室内にいても陽の光が入るための配慮など、様々な要望に対して非常にレスポンスが早いだけでなく、Fさんたちの要望を上回るアイディアも次々と出したそうです。

特に重度の障がいがある場合、先々家庭で使用する医療機器が増えていく可能性もあります。昨年の地震の教訓から、今回は予算の都合で実現できなかった太陽光パネルを設置して、自家発電ができるようにすることも検討しているとのことでした。

### 北海道札幌市 F様邸

#### ～家族構成～

3人 ご夫妻+長女

#### ～年齢～

ご夫妻：共に30代前半  
長女：4歳

#### ～ご家族の身体状況～

長女に重度の障がいあり。移動、食事、トイレ等日常生活全般に要介助

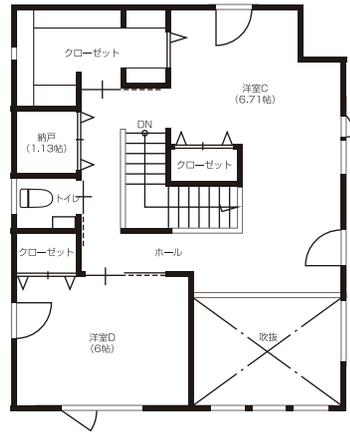
#### ～新築にあたっての要望～

- ・家のどこにいても長女とコミュニケーションが取れる間取り
- ・全般的にご両親の介助の負担を軽減できる環境に
- ・長女の部屋を一日中陽当たりよく

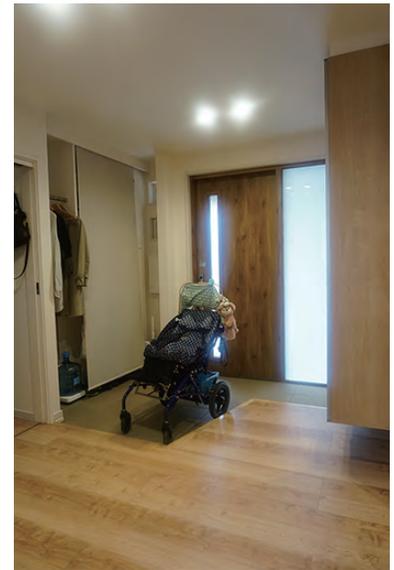


～車から直接乗降～

福祉車両の後部スロープから直接乗降できるように、駐車スペースと玄関ポーチの高さを調整しました。



2F



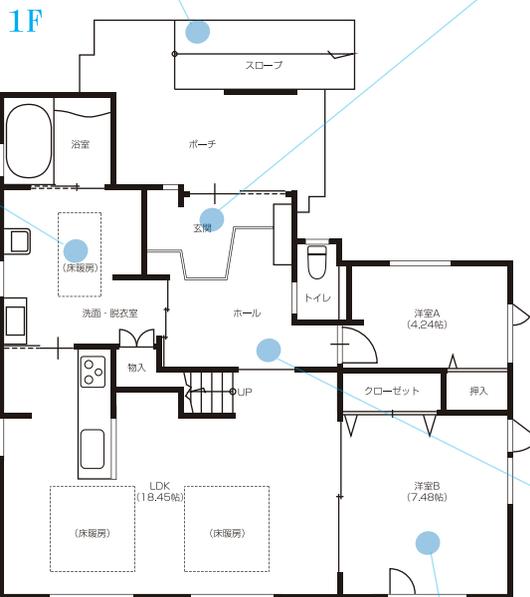
～使いやすい玄関～

框の一部を屋内側に引き込むように設けることで車いすから降りしたり乗せる介助がとても楽に。優れた工夫です。



～広々としたUT～

以前の住まいで苦労したYちゃんの入浴時の着替え。ユーティリティはうんと広くしました。Yちゃんの入浴している最中にも他の人が洗面所を利用できるようカーテンで仕切れるようにしました。



1F



～吹き抜け～

2階からでも1階の様子がわかるよう吹き抜けにしました。



～動線への配慮～

大きな車いすがスムーズに移動・回転できるようスペースの確保やドアの位置をしっかりと配慮しています。



～騒音への配慮～

音に対してとても敏感なYちゃんに配慮して、部屋の引戸は防音性が高く、閉めていても中の様子がわかる透明のタイプを採用しました。



設計・施工

(株)住まいのクワザワ

☎011-558-7132



DATE

構造 木造在来工法  
 延床面積 128.83㎡ (38.97坪)  
 1階床面積 81.21㎡ (24.57坪)  
 2階床面積 47.62㎡ (14.41坪)



平屋建ての隅から隅までが一体感のある造りに。奥様がどこにいてもSちゃんの様子がわかるよう、しっかりと配慮されています。Sちゃんは先々必要な医療機器が増える可能性もあるので、収納とコンセントを多くしています。

# 余裕あるスペースを 各所に設けて安心・快適

## 成長に考慮して特注した引戸も採用

Mさん一家は3人家族。以前暮らしていたアパートはご両親にとって、生まれつき重い障がいがある娘のSちゃんと生活する上でもさほど不便は感じなかったそうです。

しかしSちゃんが成長するに連れ状況が変わってきました。まず外出が著しく不便になりました。Sちゃんの成長に合わせて大きなサイズに変えたバギー式車いすは、広げた状態だと玄関に収まりませんでした。そのため外出するにはSちゃんをバギーから抱き上げ、外に停めてある車に乗せなければなりません。しかも抱きかかえたまま靴を履かせり、玄関ドアの開け閉めもしなければならず、とても不便だったそうです。

## 北海道旭川市 M様邸

### ～家族構成～

3人 夫妻+長女

### ～年齢～

ご夫妻：共に40代後半  
長女：8歳

### ～ご家族の身体状況～

長女に重複の障がいあり。移動、食事、トイレ等日常生活全般に要介助

### ～新築にあたっての要望～

- 全般的にご両親の介助の負担を軽減できる環境に
- 長女の様子を見ながら家事ができる工夫
- 収納を多く、使いやすく

玄関だけでなく、家の中での移動やお風呂での介助も大変になってきました。そしてSちゃんはまだまだ成長します。介助がしやすく、Sちゃんの様子を見ながら家事をできるような住まいの必要性を感じ、この度の新築に踏み切りました。段差を解消し、バギーを押しながらスムーズに移動できる動線にも配慮。戸はすべて引戸で、Sちゃんが頻繁に出入りするスペースには特注で幅110cmの引戸を採用しました。

玄関ポーチのスペースやスロープの角度は介助のしやすさに最適にできるよう、Sちゃんが利用するデイサービスの皆さんにアドバイスを受けました。使いやすい新居には、Sちゃんのお友達もたくさん訪れているそうです。



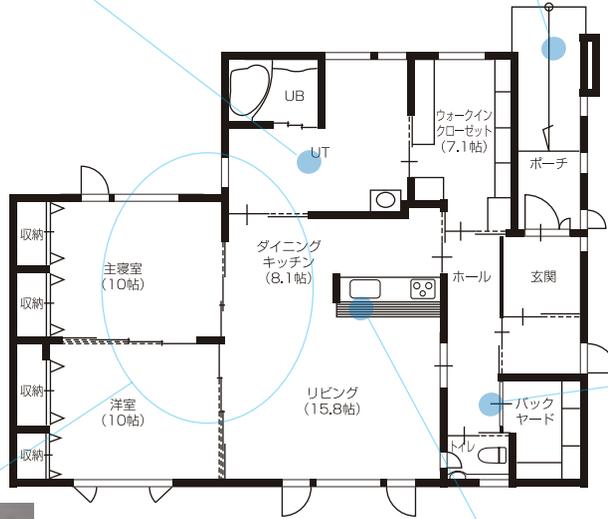
～広々とした UT～

大きなスペースを設けてベッドも配置。入浴時にSちゃんを着替えさせるのも、これなら大きく負担を軽減できます。たくさんの洗濯物が干せるのも奥様のお気に入り。



～玄関の配慮～

玄関は風雨に当たらず車に乗降できるようにしているほか、わずかに段差を付けることで埃の侵入を防いでいます。



～収納回りの動線～

玄関脇に設けた大きな収納スペースにホールと玄関から出入りできるドアを設けて回遊動線を確保することで、とても使いやすくなっています。

～引戸・動線～

場所に応じて特注の3枚引戸を採用。先々大きな介護ベッドを使用することを考慮しました。



設計・施工

(株)建創社

☎0166-36-5361



DATE

構造 木造在来工法

延床面積 138.78㎡ (41.98坪)

1階床面積 138.78㎡ (41.98坪)



～独自の用具整理の工夫～

Sちゃんに欠かせない注入道具の整理は悩みの種でしたが、キッチンのシンク上にステンレスバーを渡すことで解決。洗って干してを繰り返す用具も、ここなら管理しやすさも抜群です。

# 障がいがあってもQOLを保つことができる家づくり



7年以上の間、自ら選択して一般的な住宅で過ごしたさん。その時のアイデアも、今回の家づくりに生きました。使用している設備のなかで使用している介護機器の割合は少なく、あとは既製品を工夫して活用しています。

## ほとんどの設備は既製品を活用

Sさんが事故で頸椎を損傷し、両腕と両脚麻痺になったのは10年前です。約2年間のリハビリを終え日常に戻る時、Sさんは可能な限り障がいの無い人たちに近い環境で生きていくという強い決意を持っていました。たとえばバリアがある家でも、なんとか工夫して現状に適応しながら生活していきたい。そう思っていくつかの不動産に相談したのですが「車いすの人は入居不可」ということで断られる物件がほとんどだったそうです。それでもようやく見つけたアパートで、Sさんは7年間も1人で生活しました。

このほど、結婚を機に新居建設しました。夫婦お2人での生活になり、どちらも仕事

をされているという事情もありますが、奥様が不在の時でも入浴やトイレ、洗濯や食器洗いなどができる家づくりという、自分でできることはやるという意思の強いSさんらしい希望のもとでプラン作りを進めました。これまで一般的なアパートで生活していたSさん、リハビリ施設で出会った介護のプロの奥様、共にアイデア豊富で、特に既製品を、少しの工夫で巧みに利用することに非常に長けています。Sさんに合わせて特別にあつらえたものはほとんど無く、予算を抑えることができました。

この新居は四肢麻痺の障がいがあるSさんが、ほぼすべてのことをご自身でこなせます。意思と工夫によって、障がいがあっても高いQOLのある暮らしを実現しました。

### 北海道札幌市 S様邸

～家族構成～

2人 夫妻

～年 齢～

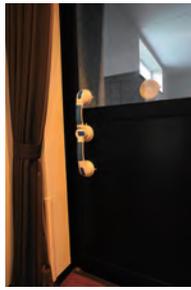
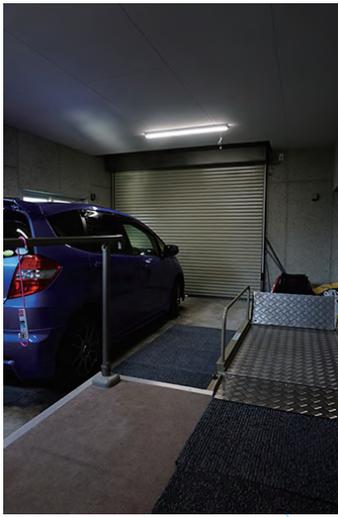
ご主人：40代前半  
奥 様：20代後半

～ご家族の身体状況～

ご主人の両下肢機能全廃、両上肢に著しい機能障がいあり

～新築にあたっての要望～

- ・ご主人が単独でも身の回りのことをこなせるようにする
- ・車の乗降時、風雨にさらされないようにする

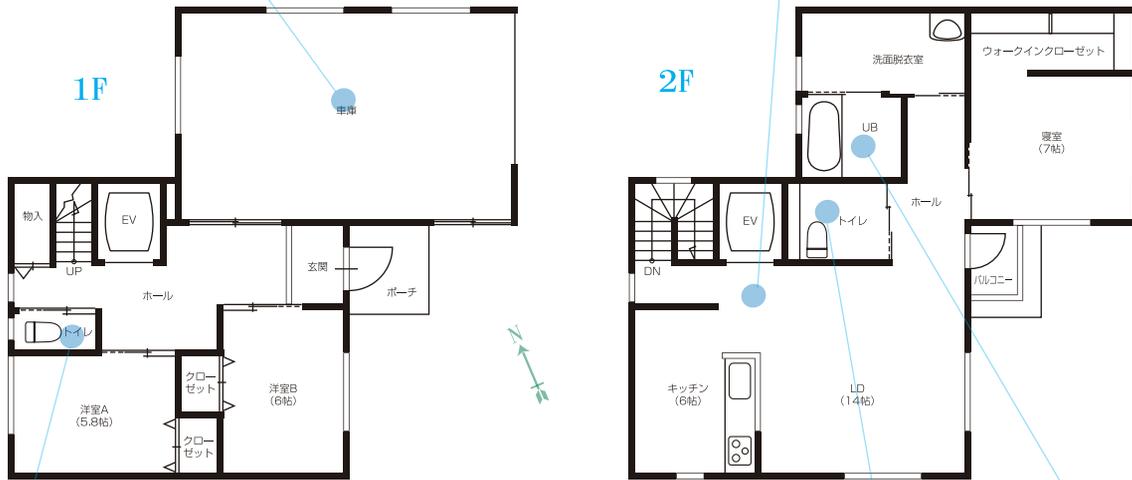


～ガレージ～

以前の住まいでは悪天候時の車の乗降に苦しめられたので、風雨に当たらずに済むガレージは念願のもの1つでした。

～エレベーター前のスペース～

スムーズな乗り降りができるよう、エレベーター前のスペースは十分に取りました。



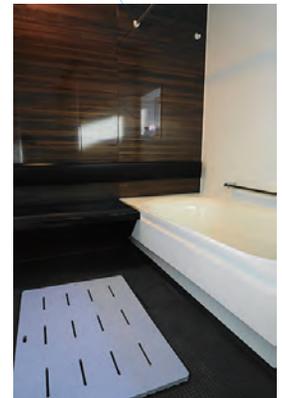
～1Fのトイレ～

車から降りてすぐ用を足せるように設置したトイレにバリアフリー設備は一切無し。長方形の間取りに対して長い方の壁面に大きく開けられるドアを施工すれば、車いすから移譲して使用可能。目からウロコのアイデアです。



～メインのトイレ～

可動式の手すり、座る高さをちょうどよく合わせ、身体を安定させるためのクッション、共に介護用品として市販されているものです。



～浴室～

浴槽からの出入りのために使うのは既製のカウンター、身体を洗う際はバスマットを敷いた床の上で。特別な備品を付けることなく、少しの介助だけで入浴できます。



設計・施工

(株)ジョイフルホーム

☎011-611-2233



DATE

構造	木造在来工法
延床面積	152.36㎡ (46.09坪)
1階床面積	76.18㎡ (23.04坪)
2階床面積	76.18㎡ (23.04坪)

# 仲間にもらった助言が

# 家づくりの貴重なヒントに



Sちゃんが日常で最も長い時間を過ごす和室の様子は、キッチンからもしっかり見守ることができます。当初は平屋も検討したそうですが、理想的なレイアウトが難しかったため2階建に決めました。

## じゅくしゅ時間をかけたプランニング

Kさんは地元で古くから稲作を営んでいる農家です。ご夫婦の間に生まれた1人娘のSちゃんには生活全般に介助の必要な重度障がいがあります。Sちゃんが生まれてからしばらくは町営の集合住宅で3人家族が暮らしていましたが、Sちゃんの介助に支障が無く、家族全員で快適な生活を送れるバリアフリー住宅の新築に踏み切りました。

新築したのは、代々受け継がれているKさんのご実家の敷地内。設計と施工は奥様のお父様が務めている建築会社に依頼しました。納得のいくまで相談しやすい環境の中で、プラン立案も施工もしっかり時間をかけて進めていくことができました。

## 北海道比布町 K様邸

### ～家族構成～

3人 ご夫妻+長女

### ～年齢～

ご夫妻：共に30代前半  
長女：5歳

### ～ご家族の身体状況～

長女に重複の障がいあり。移動、食事、トイレ等日常生活全般に要介助

### ～新築にあたっての要望～

- 全般的にご両親の介助の負担を軽減できる環境に
- 長女の様子を見ながら家事ができる工夫

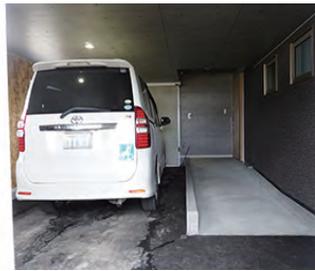
今回紹介している類似の事例と同様、新築にあたってKさんも重要視したのが介助に配慮した動線です。全身が麻痺しているSちゃんの座位をしっかりと確保するにはバギー型という大きな車いすが必要で、成長に応じてさらに大きなサイズを用意していく必要もあります。そこを見越した余裕のある動線の確保、特に気を付けたのは引戸や通路の幅です。車いすに対応するとされている基準より広い幅で、ほぼ統一しました。

Kさんには同様の障がい児を育てている親御さんの仲間が多く、情報収集は大いに助かったそうです。バリアフリーの家づくりを考えている人にとって、同様の環境にある人からのアドバイスが何より役立ったとKさんは振り返っています。



～介助に  
配慮した浴室～

ユニットバスよくあるカウンターは設けなかったことで、より入浴介助がしやすくなりました。



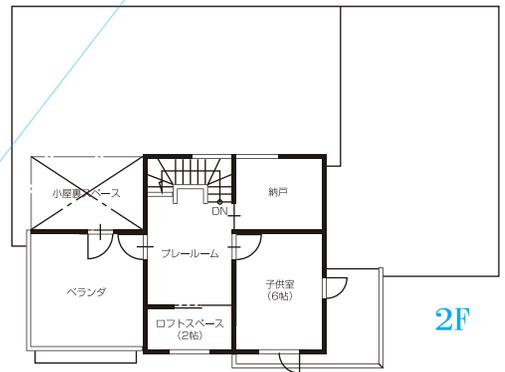
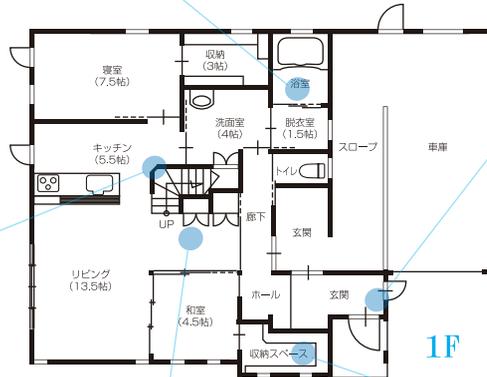
～玄関・スロープ～

玄関は土間と框の高さを揃えて車いすでの出入りをしやすくしています。スロープは建設会社の担当者がいくつもの施設を実際に訪問し、参考にしたそうです。



～角を落とした壁面～

リビングから浴室に移動する際に車いすの移動がしやすいよう、壁面の角を落としました。



～空間を有効利用～

階段脇にできた空間を上手に活用して収納スペースを設けました。重い障がいのある家族がいる家庭は、収納が多いほど安心です。



～和室の奥の収納～

Sちゃんの部屋の奥に大きな収納スペースをしつらえました。医療機器を収納するにはベストの位置です。



設計・施工

(株)総合住研

☎0154-52-0565



DATE	
構造	木造在来工法
延床面積	162.17㎡ (49.14坪)
1階床面積	94.58㎡ (28.66坪)
2階床面積	32.30㎡ (9.87坪)



# 巧みなアイデアの数々で

# 快適になった古いマンション

室内全体をワンルームのようにまとめてお母様への見守りをしやすくしつつ、住む人それぞれの生活スペースにおけるプライバシーが守られるように低い仕切りを設けました。

## 様々な課題を解決して理想の住まいに

Mさんのお母様は脳腫瘍を患い、半年間の入院・加療を経て要介護度5の身体状況になり、生活全般に介助が必要です。

Mさんは離れて独居していたお母様と近くで暮らそうと、ご自宅の程近くにある築47年のマンションを購入していました。お母様が病気になる以前に購入したそのマンションを介助しやすく、そしてお母様が快適に生活できるようにする。それが今回のリフォームのテーマです。

段差を可能な限り解消、動線を確認することで、車いすでの移動に支障がでないようにする、酷暑や冬の寒い時期でも室内の気温を効率よく快適に保てるようにする、そして

神奈川県横浜市 M様邸

### ～家族構成～

2人 母+長女

### ～年齢～

母：70代後半  
長女：50代前半

### ～ご家族の身体状況～

母に重複障がいあり。生活ほぼ全般に介助が必要

### ～リフォームにあたっての要望～

- ・室内の隅々まで移動可能に
- ・母を見守りながら家事等が可能
- ・季節ごとの温度差を軽減したい

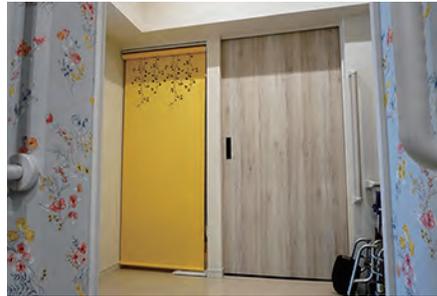
ほぼ同居に近い状態でお母様をケアするMさんが、お母様を見守りながら家事や仕事ができるようにする。そうしたプランの元でリフォームを進めましたが、古いマンションならではの様々なハードルがありました。

暑さ寒さ、換気の問題は、窓廻りの壁に断熱材を施し、給気口が無くても老朽化して隙間風が入る窓にガラリ付きの内窓を設置することにより改善。猛暑の日でも、外から帰ると拍子抜けするほど室内に暑さがこもつておらず驚いたそうです。また電気容量の制限があるため約24畳の部屋に14畳用のエアコンを設置しましたが、充分涼しいそうです。様々な難題を巧みなアイデアで1つ1つクリア。機能性、デザイン性、共にテーマどおりの完成となりました。



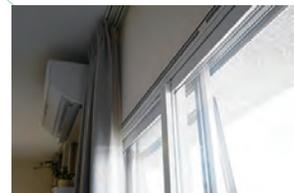
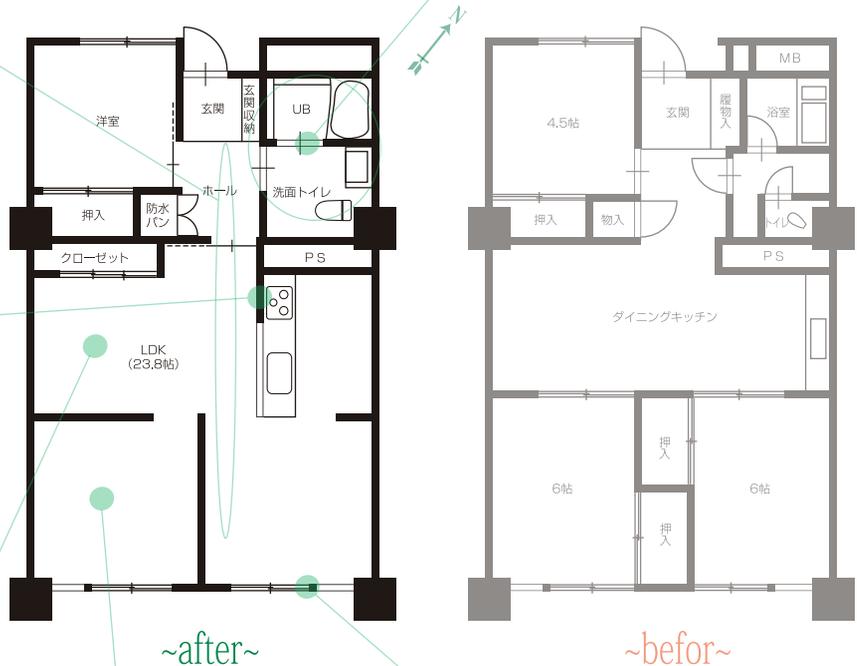
～浴室・トイレ廻り～

介助できるよう浴室とトイレを隣り合わせてスペースを確保し、デザインを工夫して明るい雰囲気になりました。



～車いすの動きへの配慮～

車いすで回転できるようにした玄関から、屋内の一番奥までを一直線で移動できる動線を確保しました。



～見守りへの配慮～

仕切りの上にはカメラを設置して、お母様が1人の時も様子がわかるようにしています。

～換気・断熱の工夫～

浴室の24時間換気と、老朽化して隙間風が入る窓にガラリ付き内窓を設置して、換気と断熱の問題を改善。誤って浴室の換気を止めた際は室内の空気が重く感じたとそうです。

設計・施工

(株)土屋ホームトピア

横浜支店

☎045-913-1995

DATE

構造 RC造(集合住宅)

延床面積 75.84㎡(22.94坪)

# 福祉住宅に長けた企業が

# 大満足のリフォームを実現



玄関を出てすぐの歩道は自転車の往来が多いため、手動の車いすを利用しているお兄様が危険なく外に出られるよう、角度も距離も完璧なスロープを設置しました。バリアフリーに精通する企業ならではの匠の技です。

## ネットで時間をかけて情報分析

Nさんのご家族はマンションの1階に暮らしています。母、長男、長女の3人家族。お母様は年齢80代で、そろそろ足腰の状態が不安です。そして脳性麻痺で全身に機能障がいがあるお兄様は、生活の一部で介助が必要です。50代後半という年齢になり、さらに生活動作が困難になってきました。今回は「家族それぞれが自立生活できる住まい」をテーマにリフォームしました。

障がいがあっても支障なく生活でき、かつ安全性にも重きを置いた家づくりを計画しましたが、苦労したのは依頼する企業選びです。バリアフリーに精通した信頼できる企業を探すために活用したのはインターネッ

トです。まず各社が公開している実例を確認してから企業を絞り込み、それこそ数百年のユーザーの生の声をチェック。するとある傾向が見えてきました。どの企業も高評価と低評価双方があるものですが、ずば抜けた高評価がある反面、悪い評価も多い、という企業ではなく、悪い評価が少なく平均値が高い企業ほど信頼できるのではと依頼したのが、この度パートナーとなった企業です。その分析はまさに的的中。担当者が女性だったこともあり相談しやすく、ご家族全員が大満足できるリフォームとなりました。

ネットによる情報収集は信頼度という点では不安がありますが、Nさんのように数多く見て分析することで答えを探す事ができるといえるのは大きな教訓です。

### 兵庫県神戸市 N様邸

#### ～家族構成～

3人 母+長男+長女

#### ～年齢～

母：80代前半  
長男：50代後半  
長女：40代後半

#### ～ご家族の身体状況～

母は元気だが高齢。長男は全身に機能障がいがあり、生活動作の大部分でなんらかの補助が必要

#### ～リフォームにあたっての要望～

- ・母と長男が自立生活できる
- ・日常生活や災害時も高い安全性
- ・陽が入りにくい箇所も明るい雰囲気



～玄関の大きな収納～

お兄様は玄関で外出用と室内用の車いすを乗り換えるので広いスペースを確保し、車いすが収まる大きな収納も設置しました。



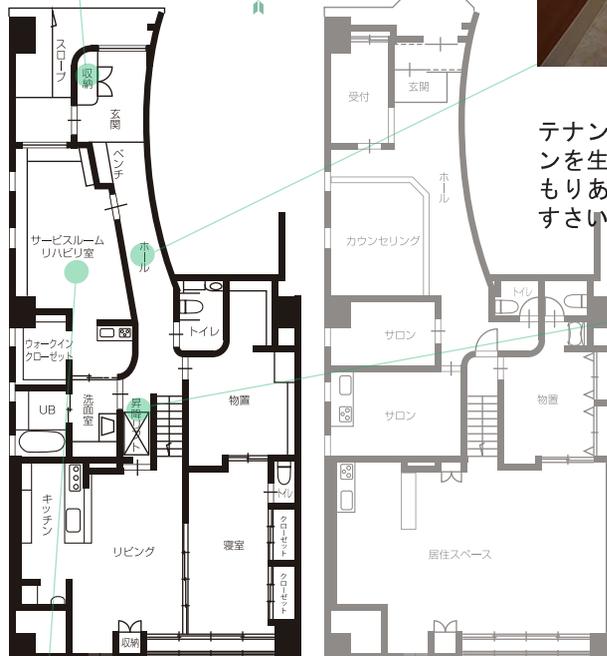
～曲線を生かした通路～

テナントとして貸していた頃のデザインを生かして長い通路を曲線に。ぬくもりある空間、そして伝え歩きのしやすさという予想外の効果も生まれました。



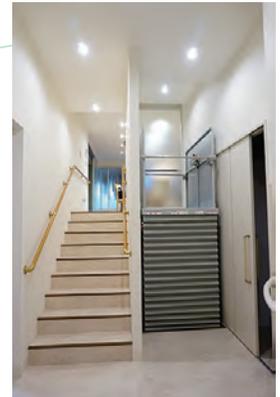
～引戸、手すり～

開口部の多くに引戸を採用しています。手すりはお母様、お兄様それぞれに応じて適切な位置に施工しました。



～after～

～before～



～昇降機～

中二階の上にあるスペースと行き来するための昇降機は、上部にあるキッチンに重い荷物を運ぶのにも活躍しています。落下防止対策も万全。



～非常口を備えたリハビリスペース～

リハビリスペースはフリースペースとしても活用しています。奥のクローゼットのさらに奥には屋外に続く通路があるので緊急時に活用できます。



設計・施工

(株)土屋ホームトピア  
神戸支店

☎078-862-8720



DATE

構造 RC造(集合住宅)  
延床面積 153.00㎡(46.28坪)  
1階床面積 89.00㎡(29.92坪)  
2階床面積 64.00㎡(19.36坪)



リビングは開口部の段差を解消した以外はそのままの状態にし、住み慣れたままの雰囲気を残しました。引戸の奥は広縁に出られる和室。お母様の憩いのスペースとして重宝しています。

# 断熱性能を上げ四季を快適に 段差解消で安全に暮らせる家

## 断熱なら寒冷地の企業に依頼と判断

Nさんのお母様は少しだけ耳が遠いそうですが、そのほかはお元気そのもの。楽しんでうにお話をしていただいた様子からは、とても91歳という年齢を感じさせません。しかし、お母様のような元気なお年寄りも、確実に身体は衰えています。ちよつとした段差につまずいたり、寒暖差の大きな空間で倒れてしまう可能性がどうしても高くなってしまうのはすべての人々に共通しています。

Nさんご夫妻が住む家は築29年です。雨漏りする箇所やシロアリによる腐食が懸念される箇所があったためリフォームを考えていました。お子さんたちはすでに独立。お互い還暦を過ぎたNさんご夫妻が安全に生活

できる環境も整えていく必要がありました。バリアフリーにして安全性を高めれば、当時独居していたお母様も迎えて一緒に暮らすこともできると考えました。

これまでの生活で気になっていたのが家中の温度です。夏と冬の寒暖差が大きく、浴室や玄関などは冬になると厳しい寒さになっていたため、ヒートショックが心配でした。その対策として選んだのが断熱化です。

建築に詳しいご主人は、断熱するならば寒冷地に本社を置く企業に依頼するのがベストと判断したのは正解でした。合理的かつ効果的な断熱や、まだご家族3人が元気なので、段差解消や間取りの一部修正などのバリアフリーなど、末永く安全に暮らしていく基本的な部分をしっかりリフォームしました。

### 神奈川県横浜市 N 様邸

#### ～家族構成～

3人 母+夫婦

#### ～年齢～

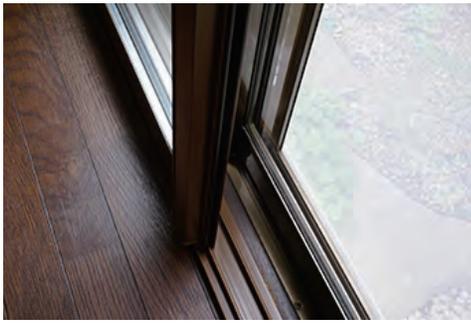
母：90代前半  
長男：60代前半  
妻：60代後半

#### ～ご家族の身体状況～

母が要支援1だが、生活全般は概ね介助無しで可能

#### ～リフォームにあたっての要望～

- ・母の転倒を防ぐバリアフリー
- ・季節ごとの寒さ・暑さを軽減する断熱
- ・雨漏り防止と白アリ駆除



～すべて二重窓に～

断熱性能を高めるため、すべての窓を二重に。本州ではまだ珍しいようですが、北海道では以前から根付いています。

～浴室の安全配慮～

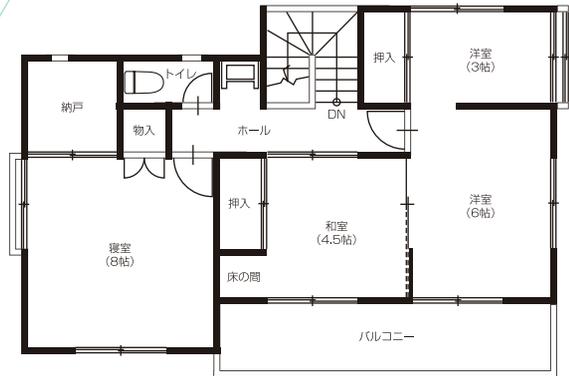
お母様が安全に入浴できるように必要な場所に手すりを施工したほか、浴槽は跨ぎの浅いタイプ、そして浴室暖房も採用するなど様々な配慮しました。



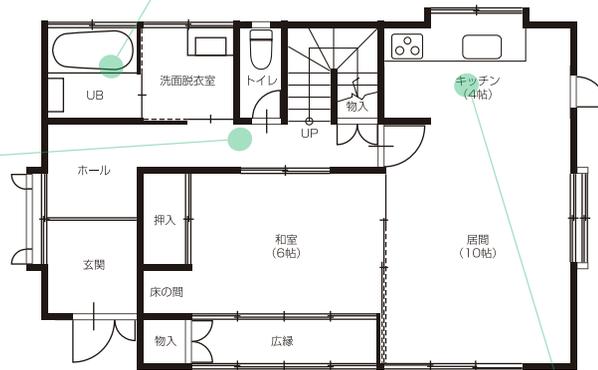
～動線～

直線の廊下は移動しやすく、万が一車いすを使用することになっても安心です。手すりの施工や段差解消して安全に配慮しました。

※リフォーム前の平面図は残っていません



2F



1F

DATE

構造 木造在来工法  
 延床面積 115.92㎡ (35.06坪)  
 1階床面積 62.10㎡ (18.78坪)  
 2階床面積 53.82㎡ (16.28坪)



～キッチン～

お母様はご自分でお料理するのが大好き。ご家族もそれを続けてほしいと、今回のリフォームではキッチンも一新しました。もちろん段差解消など安全にはしっかり配慮しています。

設計・施工

(株)土屋ホームトピア  
 横浜支店

☎045-913-1995

# 全国の障がい者を受け入れる 多様なタイプのGHを用意



「GHぱんけの森」は2ユニット構成で、1ユニットはよりサポートを必要とする高齢・重度障がい者用。どちらも一見しただけだと一般住宅のような雰囲気ですが、随所に安全性、快適、効率を考えた配慮がなされています。

## 重度障がい者と家族のよきこころ

光の森学園は重度の知的障がい者や自閉症、精神障がい者の人たちを支援する施設として平成4年に発足。基本的に18歳以上の障がい者を受け入れており、現在は社会福祉法人として生活支援、作業指導、社会生活への適応訓練を行う「支援施設」、創作活動や生産活動などの機会を提供する「生活介護事業所」、指導員のサポート受け地域で日常生活を送る「グループホーム」の3部門を中心に事業を展開しています。

現在光の森学園ではグループホームだけでも15カ所を運営し、入居者数は170人を超えています。入居する上での条件は18歳以上の知的障がい者で、家族での支援が困難

な状況にある場合です。全国どこからでも入居者を受け入れており、現在は6割が道外から来ています。

障がいがある人でも住み慣れた地域で暮らすのが理想であるというのが、世界共通認識になっています。にもかかわらず、光の森学園には全国、特に関東方面から入居を希望される人が後を絶ちません。それは首都圏や周辺部では地価の高騰が続いているため、重度障がい者をケアできるような施設の新設が進んでいないという事情が影響しているためです。日本全体が高齢化問題に直面していますが、障がい者とその家族にとっても深刻な問題です。支援が必要な障がい者が一生を終えるまでの受け入れ態勢を用意している光の森学園は、非常に貴重な存在です。

北海道札幌市



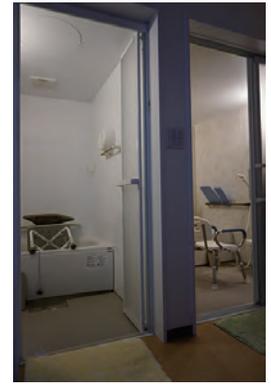
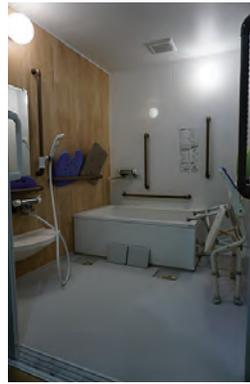
グループホーム  
ぱんけの森

設計  
(株)ビープラン  
☎011-208-2233  
施工  
西岡建設(株)  
☎011-584-3001



～解除しやすいロック～

入所者が誤って外に出ることを防ぐための施錠については、事前に保護者に説明して了承を得ています。火災が生じた際、火災探知機と連動し自動的に開錠されるようになっている「電子錠」を採用。



～細やかな配慮～

各ユニット入所者の障がいの程度に応じて設置した浴室。全介助が必要な入所者のユニットの浴室は広く、自身で入浴可能な入所者には待ち時間を軽減できるよう2つの浴室を設置しています。



～喫煙室も完備～

スプリンクラーと共に喫煙室も用意して、火災への備えはしっかり。



◎ 経営主体

社会福祉法人光の森学園

☎011-615-2401

定員 19人

入居者数 19人

◎ 家賃等

入居時 無料

家賃 38,000円

食費 朝食220円、昼・夕食  
270円(各1食)

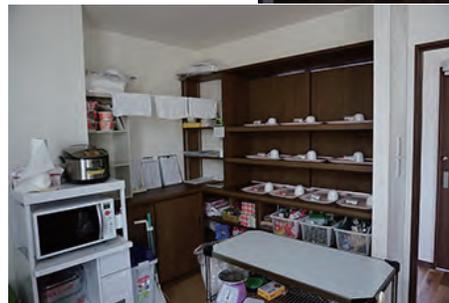
光熱費

◎ 基本的付帯サービス

日常生活、日中、夜間支援その他

◎ 協力機関

白石内科循環器クリニック(内科)  
他近隣医院等



～キッチン・配膳室～

料理や食器の受け渡しをする開口部には仕切りを設け、使う時だけ開けています。安全面が向上し、整理するのがなかなか大変なキッチンの目隠しにもなる工夫です。

グループホームは障がいの度合いや性別などに応じて様々なタイプを完備しています。入居者はそこから法人が運営する支援施設や生活介護事業所に通って仕事に精を出し、仕事が難しい人は創作活動などに日々取り組んでいます。

平成18年から障害者自立支援法が施行されています。光の森学園は支援区分4以上に相当する重度障がい者を受け入れていたため給付額が増加し、運営がしやすくなりました。それを機にさらに施設を拡大し、全国からより多くの入居者を受け入れられる体制づくり、その入居者の皆さんが日々のびのびと楽しく過ごせ、家族も安心できる環境づくりを進めています。

## 医療と福祉で街づくり



### 高齢化が進む地域を活性化する 北海道済生会小樽病院の新視点



歴的建造物を保存している小樽市内の景観地区

小樽市の北海道済生会小樽病院は、約10年前から医療や福祉を核にした地域活性化へのアプローチを行っています。観光地化、企業誘致…地方都市や郡部では疲弊を食い止めようと、様々な取り組みが行われていますが、医療・福祉による地域活性化とはどのようなものか取材しました

## 医療・福祉視点の地域活性化構想

医療法人や社会福祉法人は都市部、地方に関わらず不可欠なものです。医療や福祉の担い手としてはもちろん、特に疲弊する地方の場合は雇用も含め、経済的な貢献度も非常に大きなものがあります。

北海道済生会小樽病院(以下小樽病院と表記)の所在地である小樽市は北海道を代表する観光地。例年多くの観光客が訪れていますが、その反面人口流出はとどまることなく、市内の各地では空洞化も深刻化しています。地方都市・郡部を活性化する取組みとして観光化や企業誘致に着手する地域は多いですが、小樽は道内でも早い時期に観光化に着手した都市です。その取り組みは大きな成果を上げていますが、街の将来を安定させるまでには至っていません。

医療・福祉という社会福祉法人として有する機能をフルに活用し、地域の包括ケアシステムの核となっていくことで、医療・福祉を越えた地域貢献が可能なのではないか。それが小樽病院から生まれた発想で

す。前例を見ないようなその発想の実現に向け、平成21年に基本構想を策定。着々と進行させています。

## 経営改善の中で見つけた新たな可能性

明治44年、明治天皇は「施業救療の精神」、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべるといふ理念の元、「恩賜財団済生会」を創立されました。現在の小樽病院のルーツである済生会小樽診療所は大正13年、現在とは別の場所に開設しました。現在は築港地区に移転し、障がい児入所施設や老健施設などの関連施設も運営しています。

創立の理念を守りながら、低額医療などにも積極的に取り組みつつ運営を続けてきた同院ですが、平成18年の診療報酬大幅改定の影響を受け財政は悪化。その際同院では多くの企業で導入されている経営分析手法「SWOT分析」によって打開を図りました。自分たちの強みと弱みを抽出し、外部環境と照らしながらマーケティングや経営戦略を立てていくSWOT分析。社会福祉法人がこの分析手法を取り入れ

るのは異例のことですが、小樽病院はその分析によって、自院では整形外科や、神経内科、リハビリが充実していたこと、それは地域には無い、リハビリテーションの提供や在宅療養中に体調悪化した患者を受け入れる「回復期医療」を提供できる条件であると判断。そちらの方向に舵を切った。結果、経営危機から脱することができました。

そして小樽病院はその分析のなかで、別大きな発見をします。より良い回復期医療の提供を核とした理想の医療・福祉の体制づくりを進めていくことは、持続可能な街づくりにも寄与できるということです。

## 市のビジョンと医療・福祉をリンク

民間事業者はどれだけいいアイデアを生み出しても、街づくりを直接手がけることはできません。だから小樽病院は、小樽市が目指す街づくりと自分たちの構想をリンクさせ、連動して進めていけるように働きかけました。市が目指す街づくりを実現するため、医療や福祉の視点に立った具体的なアイデアと事業計画を提言し、取

り入れてもらうための働きかけです。

小樽病院のアイデアや事業計画を実現するためには医療・福祉以外の分野との連携も不可欠でした。幅広い分野が参入することは、経済効果や地域の活性化にもつながっていきます。こうした発想は行政からも大きく評価されました。小樽病院は様々なアイデアを基本構想として策定。平成21年からその実現に向けた取り組みを開始しました。

## 医療・福祉地域をコンパクトシティ化

小樽市が掲げる総合計画に沿って策定した小樽病院の基本構想には多岐に渡る内容が含まれていますが、中核としている取り組みの1つに「医療・福祉サービス業務地区」における事業拡大があります。小樽病院は平成25年、南小樽の築港エリアに設けられた「医療福祉関連業務地区」に移転しました。同時に居宅介護支援事業所などの関連施設も近隣に移設し、さらに障がい児入所施設などの施設の移転・統合を進めています。

現在国では在宅医療・介護を奨励してい

ますが、小樽とその周辺は急傾斜地が多いうえに降雪量も多く、回復期医療がメインの小樽病院にとって不可欠な在宅サービスを提供するための負担は、他の地域よりもはるかに大きいのが現状です。例えば中山間地に訪問看護や通所サービスする場合、雪になると車でアプローチできない家まで複数のスタッフが向かい、そりを使って患者を送迎車まで移動させることなども珍しくありません。施設や機能を集積化することで医療・福祉サービス提供の負担を軽減できると同時に、効率的で質のいいサービスの提供が可能になります。

小樽市の中でも平坦なベイエリアのなかの医療福祉関連業務地区は、もともと医療・福祉関連事業者のみが事業所設置の対象でした。そこで小樽病院は事業を拡大しながら土地のオーナーであるJR北海道と協議し、生活に必要な他のサービスの誘致も可能にしました。現在コンビニが1軒オープンし、2軒の飲食店も開店に向けて準備中。もちろん出店を希望するサービスの店舗はあらゆる障がいに対応できるバリアフリーにすることが条件です。す



小樽市内の大部分は険しい山間地域が占めている。冬場は急傾斜地にあるこちらの住宅街にアプローチできる車の車種は四輪駆動車に限定されるのでは。しかも道路から母屋まで階段でなければとどり着けない家も多数。こうした地域に訪問サービスを行うのがいかに困難かは、素人目にも一目瞭然だ

でオープンしているコンビニは陳列棚の間のスペースが広く、大きなサイズ車いすでの移動も可能。高齢者や障がい者に優しい店舗づくり実現しています。

さらには行政や事業者に対してサ高住などの誘致も働きかけています。それらは医療・福祉分野の施設だけを集積するのではなく、最終的に築港地区を高齢者や障がい者が安心・快適に生活できるコンパクトシティ化していくという壮大なビジョンに基づいた取り組みです。地域の現状に応じて質の高い医療・福祉を提供するための環境を創り、それを必要とする人たちが近隣で生活できる環境も整える。それは結果として小樽市の総合計画の指針の「1つ」ともに支え合い、安心して健やかに暮らせるまち」を具体化する取り組みとなっています。

ます。福祉的な視点から認知症の患者や家族、地域の人などが集まり、情報交換したり、おしゃべりを楽しむ「オレンジカフェ」の設置、福祉の職業体験ツアー、病院内でロビーコンサート開催などの事業がその一環です。建設中の飲食店がオープンしたら、高齢者や障がい者が集まれる場所はさらに増えます。

またデイケアに通所で通う利用者が買物ができるシステムも作りました。従来のように入浴やリハビリだけでなく、通所するたびに買い物を楽しめるように配慮したシステムで、多くの利用者から大好評を博しています。

築港エリアを安心快適、機能的なコンパクトシティ化していく取り組みは、まさに現在進行中。数年前、当財団では大分県別府市亀川にある社会福祉法人「太陽の家」を視察させていただきました。1965年に創立したこちらの施設の周辺にあるスーパーや銀行などは、すべてバリアフリー。そしていくつもの大手企業が事業所を設置し、太陽の家の入所者を中心に多くの障がい者を雇用しています。現在では施設

周辺が世界的にも有名な福祉の町として知られるようになりました。築港エリアもそのように姿を変えていくのでしょうか。

### 地域の異業種を積極的に巻き込む

そのほかにも小樽病院は様々な取り組みを行っていますが、すべてはより広い分野の事業者を経済的な波及効果が生まれることを念頭に置きながら進められています。

例えば小樽病院では自前の移送部門を所有せず、送迎はパートナーの別会社に委託しています。法人内部に送迎システムを設けるという選択肢もありますが、委託することは送迎のプロである企業を地域のなかで育てることになり、また法人の負担軽減にもつながります。

観光とリンクさせた、地域の減塩食対策も行っています。小樽は塩分摂取の多い地域ですが、自ら健康診断を受ける人が少ないという現状があります。その対策、予防医療の一環として、小樽病院では地元ゆかりのある著名人が実際に食べていた食事をもとに「小林多喜二御膳」「石原裕次郎



小樽観光の目玉の1つ、堺町通り商店街(上)は平日でも多くの観光客が行きかう。しかし有名店は数点あるものの観光施設が無いJR小樽駅のすぐ近くにある商店街(下)は人影もまばら。小樽市内の風景はコントラストが大きい

御膳」などの減塩食を考案。病院給食として提供しているほか、保健所が登録している減塩食提供店にメニューとして取り扱ってもらえるよう働きかけています。

そのほかにも地域の特産品の宅配サービスと連携して買い物困窮者の支援も行うなど、地域にもともとある企業と積極的にパートナーシップを構築することで、地域の活性化に繋がっていきたい考えです。事業内容によっては地域の企業だと対応できないものもありますが、既存の企業を地域の資源と位置づけ、その資源をフル活用

していくことも基本構想で重要視している側面です。その上ですべての事業は、例えば障がい者も一緒に食事できる店づくり、あるいは地域の食文化などを広く発信することに、小樽病院と共に取り組んでい

ただくという条件を各方面と合意を形成しながら動いています。

そうした幅広い地域の企業などと連携を進める一方、小樽病院では同じ医療・福祉に関連する他の事業者との連携拡大・強

### 同業者とのパートナーシップを重視

化も図っています。

前述したとおり小樽市は平坦な地形がほんの一部で、大部分は険しい傾斜地です。そうした地域に住む患者へのケアは、大きな労力を要します。この問題の解消は難しいですが、市内に点在している事業者と連携、役割分担することで、互いの負担を軽減させつつ地域全体へのケアを手厚くできます。

小樽病院では平成29年、医療的なケアのほかに、生活困窮者への別の支援として衣類、下着、食事などを在庫し、包括支援センターや在宅事業所から連絡があった場合は無償で提供する「なでしこプラン」という支援事業をスタートしました。この事業を通じて地域の福祉事業者との連携強化を図っています。

昨年に発生した北海道東部地震が引き起こしたブラックアウトは、地域での連携強化の必要性を改めて感じた教訓となったそうです。全国的なネットワークがある小樽病院には、使い切れないほどの量の救済物資が届きました。山間部には様々な物が不足していた人々が多くいましたが、非

常時における他の施設とのネットワークが整備されることで、そうした余剰物資を山間部の皆さんに届けることもできます。また経営が厳しいグループホームなどにとっては、小樽病院と連携を組むことで信頼度が高まったり、地域交流が深まることで認知度が高まったりするメリットもあります。連携・成長・好評というスキームをもっと作ることができれば、ネットワークの事業者や企業、多くの負担を単一人の内

心豊かに学び、地域文化をはぐくむまち（生涯学習）  
ともに支え合い、安心して健やかに暮らせるまち（市民福祉）  
安全で快適な住みよいまち（生活基盤）  
人・もの・情報が交流する活力あるにぎわいのまち（産業振興）  
自然とまちなみが調和し、環境にやさしいまち（環境保全）

第6次小樽市総合計画のなかで制定された、街づくりの5つのテーマ。小樽病院はこのテーマに沿いながら事業を進めている。令和元年度から10年度を計画期間とする第7次小樽市総合計画の策定が現在進行中で、その内容に応じて小樽病院も新たな事業を企画していくのだろう

部で抱えるロスを軽減できる小樽病院、双方にとって絶対的なメリットがあるというのが、基本構想を構築する上で骨子となった考え方です。

ここに紹介した取り組みはほんの一部に過ぎませんが、小樽病院ではこれまでの10年で基本構想の8割方を達成できていると自己評価しています。今後はより地域のネットワークを強化していくことが課題ですが、地域既存の資源の活用が広がっていくことで、より地域にもたらす経済効果が大きくなっていくことも、もちろん期待できます。

### 街づくりと社会貢献に携わる喜び

この取り組みは、小樽病院の内部にも活気をもたらしています。スタッフたちは、自分たちの尽力が「街づくりに貢献できる」ということを感じながら、ユニークな事業を次々と立案し、積極的に取り組んでいるそうです。

一方、パートナーの事業者は、安定的な業務という期待と共に「社会に貢献できる」喜びも大きな原動力となって、積極的に事

業に関わっているそうです。現在まで行政、地域経済界、外部からの事業者、いずれからも強い支持を受けながら、構想の現実化が進んでいるそうです。

小樽病院のこの取り組みは今、全国でも注目され始めています。取材を進めるうちに感じたのは、小樽病院が「顧客志向」という観点、つまり患者や利用者の顧客のよう  
に尊び、その満足に応えるという姿勢を重んじた結果、このような大きな動きを可能にしていたということ。冒頭でも触れましたが、SWOT分析は顧客に満足いく商品やサービスを提供できることで収益につながる営利企業が行う経営分析手法です。地域の実情、自分たちの強みと弱み、患者・利用者のニーズを徹底的に分析した結果に基づく取り組みが、地域活性化をもたらす動きにまで昇華しようとしています。

地域に不可欠な医療・福祉の担い手から働きかけ、行政や地域の異業種と連携して行う街づくりは、高齢化が進む地域に適した新しい活性化の形として、大いなる可能性を秘めていると感じずにはられません。

昨年同様、「ふれあい」の編集作業を進めている最中に、西日本での水害のニュースが次々と入ってきました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

自然災害が多く発生している近年ですが、福祉住宅もその対応策を早急に検討しなければいけません。今回の取材でそのことを改めて実感しました。

改題した号も含め「ふれあい」は、おかげ様で今回30回目の発行をさせていただくことができました。改めて関係者の皆様に対して、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

近年は応募いただく企業様の数も少しずつ増え、感謝に堪えません。今回も簡素なものではございますが、特に優れた作品を設計・施工された企業様に対して感謝状をお贈りさせていただいております。

今後も、より多くの皆様から福祉住宅建築助成へのご参加をお待ちしております。

(公財)ノーマライゼーション住宅財団

第30回

2019 福祉住宅建築助成実例集

ふれあい

公益財団法人

**ノーマライゼーション住宅財団**

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9F

電話(011)613-7551 FAX(011)612-8431

<http://www.normalize.or.jp/>

2019年8月発行

すべての人にやさしい住まいの環境を考える  
Normalization Housing Foundation



総額300万円

2019年度

福祉住宅・福祉小規模集合住宅

# バリアフリー 建築助成

「すべての人が共に暮らし共に生きることが  
ノーマル(正常)である」という  
ノーマライゼーション理念に基づき、  
高齢者や障がい者にとっても安全・安心で  
快適に暮らせる住生活環境の整備・向上のため、  
助成金により福祉住宅の建築を支援いたします。

## 助成の 対象者

高齢者や障がい者が安心して暮らせる住宅、また将来身体機能が  
低下しても安心して生活できる住宅として新築やリフォームした建築主  
※原則として平成30年(2018年)12月以降に工事が完了した物件

福祉住宅	新築(バリアフリーにした物件)やリフォーム(住宅内外の手すり・ スロープ・トイレ・浴室等)の住宅改善・改修した建築主
福祉小規模集合住宅	グループホームや高齢者向けアパートなど(10名程度居住)の建築主

## 応募期間

2019年5月1日～11月30日(必着) 年1回公募

## 応募先

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ループル16 9F

TEL: 011-613-7551

FAX: 011-612-8431

E-mail: zaidan@tsuchiya.co.jp

<http://www.normalize.or.jp/>

詳しくは  
ウェブサイト・裏面を  
ご覧ください。



主催 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

後援 北海道 社会福祉法人北海道社会福祉協議会  
札幌市 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 北海道デザイン協議会



福祉住宅の実例、財団の活動に関しては  
ノーマライゼーション住宅財団のホームページをご覧ください

<http://www.normalize.or.jp/>